

第76号 通巻14巻第3号

1994年10月1日 発行

守山市立埋蔵文化財センター

☎ (0775) 85-4397

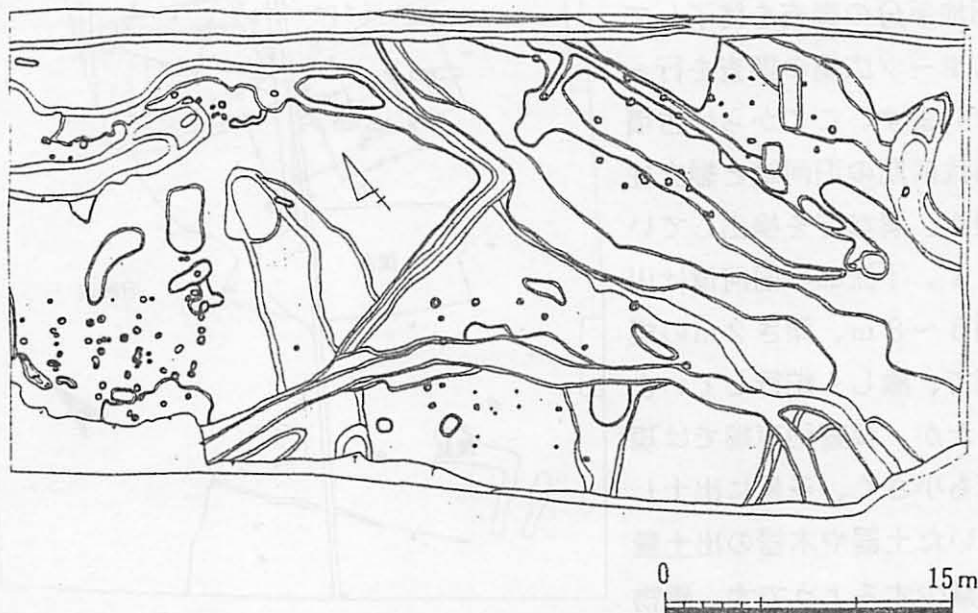
〒 524-02

守山市服部町2250番地

弥生時代中期の方形周溝墓の調査

1. 八ノ坪遺跡の調査

7月から宅地造成工事に先立ち、約1,800㎡を対象に発掘調査を実施しています。場所は琵琶湖大橋取り付け道路の西側にあたり、『衣笠』の立飾りが出土した調査地点から東に200m程のところでは、調査の結果、弥生時代中期の^{ほうけいしゅうこうぼ}方形周溝墓が2基検出されたほか、古墳時代前期の^{きゅうかどう}旧河道が1条、^{ほったてばしらたてもの}鎌倉時代の掘立柱建物などがみつかりました。方形周溝墓はL字状とコの字状に検出されたもので、溝底から弥生時代中期から後期にかけての土器が若干出土しました。旧河道は幅8m・深さ2mの規模で、底から古墳時代前期の^{ふるしき}「布留式」と呼ばれる^{かめ}甕が出土しています。位置関係から『衣笠』が出土した川の上流にあたり、同じ川筋である可能性があります。



酒寺遺跡遺構平面図

2. 吉身北遺跡の調査

勝部町地先で、都市計画道路建設に先立ち発掘調査を実施しました。調査地の南西側では近世以降に埋まった3条の自然流路^{しぜんりゅうろ}がみつかり、地形的には東高西低であったことがわかります。また、北東隅では上下2層の遺構面が確認されました。このうち上層では室町時代以降の幅2m・深さ1.4mの空濠状^{からぼりじょう}の溝と土壌・ピット^{どこう}が、また下層からは古墳時代後期の溝と土壌が検出されました。今回の調査では上・下層ともに住居跡はみつかりませんが、溝などから生活雑器が多数出土しており、ここから北東側に集落跡が広がっていることが予想されます。

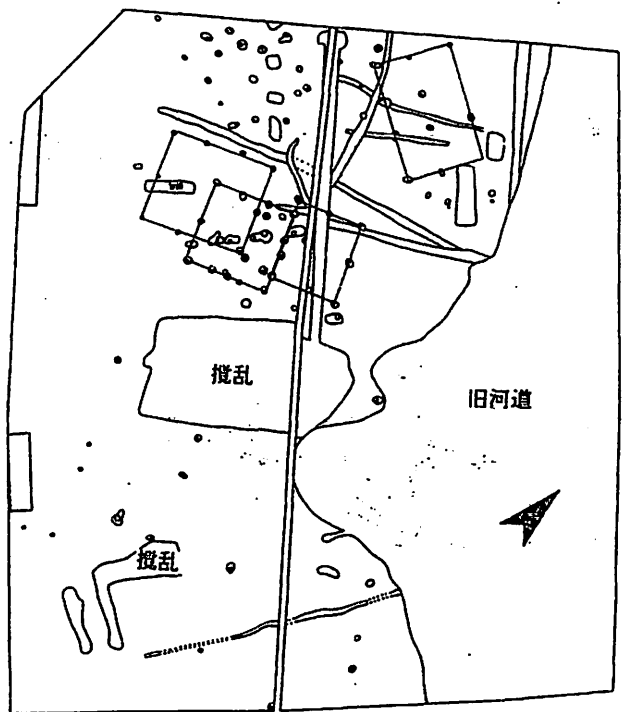
3. 大洲遺跡第4次調査

阿村町地先で道路建設（阿村―千代線）に先立ち、発掘調査を行いました。その結果、古墳時代中期の流路1条と近世以降の井戸2基がみつかりました。井戸は直径約2mの規模で、素掘りのものでした。

調査中

4. 八ノ坪遺跡の調査

全国で初めて『衣笠』の立飾りが出土した八ノ坪遺跡の調査も好天に恵まれ、終盤にさしかかっています。九月上旬現在、水田地部分の調査を終了して、スポーツ広場の調査を行っています。ここからは古墳時代前期の旧河道と掘立柱建物、溝などを検出しています。下流部の旧河道は川幅5～8m、深さ2mの規模で、激しく蛇行していましたが、調査地東端では規模も小さく、多量に出土していた土器や木器の出土量も減少するようです。建物は少なくとも4棟が確認で

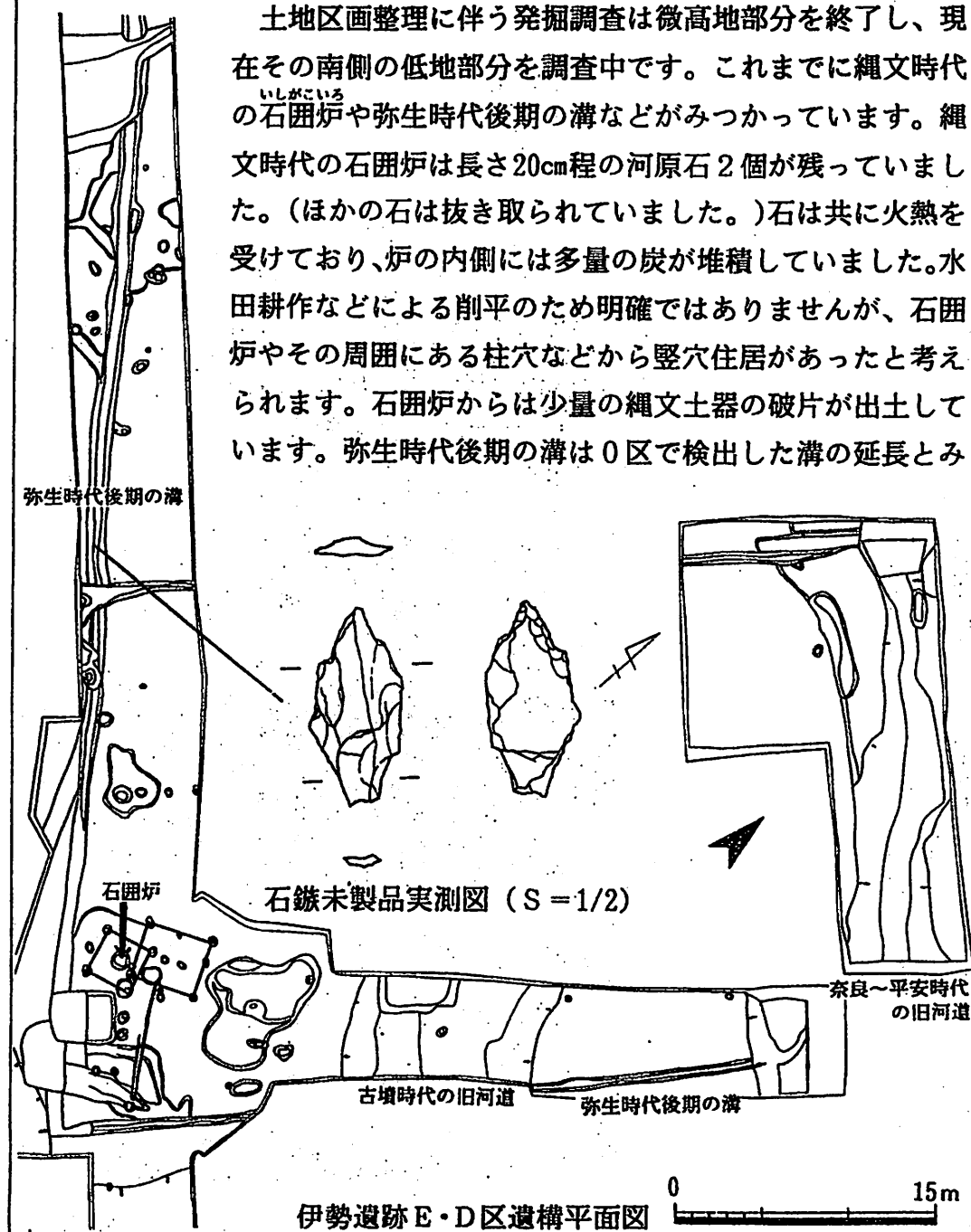


八ノ坪遺跡遺構平面図

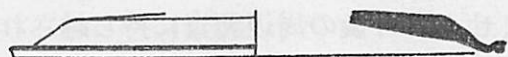
きましたが、旧河道の周辺に建物が散在するという従来の集落イメージを変えるには至りませんでした『衣笠』の立飾りの出土によって、かなり有力な豪族の存在が予想されましたが、今のところその住居はみつかりません。今後の周辺調査に持ち越された課題といえます。

5. 伊勢遺跡第28次調査

土地区画整理に伴う発掘調査は微高地部分を終了し、現在その南側の低地部分を調査中です。これまでに縄文時代の石囲炉や弥生時代後期の溝などがみつかりしています。縄文時代の石囲炉は長さ20cm程の河原石2個が残っていました。(ほかの石は抜き取られていました。)石は共に火熱を受けており、炉の内側には多量の炭が堆積していました。水田耕作などによる削平のため明確ではありませんが、石囲炉やその周囲にある柱穴などから竪穴住居があったと考えられます。石囲炉からは少量の縄文土器の破片が出土しています。弥生時代後期の溝は0区で検出した溝の延長とみ



られ、約80m南西方向に直行し、北西方向にほぼ直角に屈曲するようです。
 溝からは弥生時代後期の土器と石鏃^{せきぞく}の未製品^{ねんぱんがん}（粘板岩製）が1点出土しています。このほか古墳時代と奈良～平安時代にかけての旧河道をそれぞれ1条ずつ検出しています。奈良～平安時代の旧河道からは多量の土器をはじめ、「秋」と書かれた墨書土器^{ぼくしよどき}が1点と曲物（容器）^{まげもの}が1点ほぼ完全な形で出土しています。



墨書土器実測図（S=1/2）



1. 八ノ坪遺跡
2. 吉身北遺跡
3. 大洲遺跡
4. 八ノ坪遺跡
5. 伊勢遺跡
6. 欲賀遺跡

発掘調査位置図

6. 欲賀遺跡の調査

欲賀地区は場整備に伴う調査は8月から「中の城」と呼ばれているE区(約3,000㎡)の掘削を開始しています。調査区の南東側では縦横に走る小溝がたくさんみついています。これらは幾重にも切り合っていることから、何回か掘り直されているようです。また、この複雑な小溝の西側には幅3m程度の溝があり、橋脚跡と考えられる杭列が出土しています。さらにその西側からは多数のピットがみつかり、建物群が想定されます。

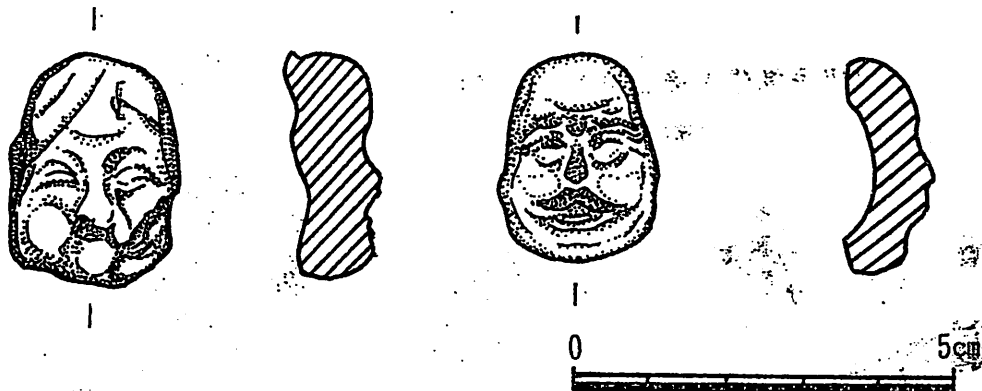
☆ 金森町で採取された『どろめん』☆



金森町地先の畑で、直径2.8cm、厚さ約1cmの素焼きの面形がみつかりました。みつけたのは今宿町の坂本明さんで「農作業中、畑の耕作土の中からコロッと出てきた。」とのこと。この面形は『どろめん』または『泥面子』と呼ばれる江戸時代のおもちゃで、その種類は当時の人気役者の紋章や火消しの纏、英雄ものなど約2000種にもものぼったそうです。

遊び方にはいろいろあるようですが、地面に6～16くらいの区画を描き、一定の位置から約束で定めた場所に面子を投げ入れ、次の者がさらに前者の投げた面子をめがけて投げ入れる。それが前の面子に重なれば自分のものとなり、もし線の上にかかれば逆に相手にとられる。といった具合です。

市内での類例では二町鏡遺跡(二町町)と塚之越遺跡(古高町)のものが知られています。塚之越遺跡から出土したものには、投げた際に欠損したのではないかと思われるキズが残っていました。江戸時代の子供たちが遊びに熱中して、歓声をあげる声が今にも聞こえてきそうです。



採取された『どろめん』

☆ 平成6年度秋季特別展開催のお知らせ ☆

市立埋蔵文化財センターでは下記のとおり特別展を開催いたします。今回の特別展は古代生活のなかで木がどのように利用されていたかを理解するために企画したもので、市内から出土した様々な木製品を展示いたします。木器だけを扱ったこのユニークな展示会にぜひお出かけ下さい。

記

開催テーマ 『木器－古代における木の利用』

開催期間 平成6年10月23日（日）～11月6日（日）

開催場所 守山市立埋蔵文化財センター

開館時間 午前9:00 ～ 午後4:00（期間中は無休です。）

主な展示品 下長遺跡 鍬、鋤、琴、腰掛け、容器、櫓、舟形木製品

下之郷遺跡 高杯、鳥形木製品、弓、戈の柄（レプリカ）

服部遺跡 琴、琴柱、斧の柄、木槌、盾形木製品

八ノ坪遺跡 衣笠の立飾り

湯ノ部遺跡 木偶（県教委から借用）

中沢遺跡 扉（栗東町立歴史民俗博物館から借用）

講演会 10月23日（日） 午後1:30～

『木器を科学する』

中川正人氏（滋賀県文化財保護協会主任）

10月30日（日） 午後1:30～

『遺跡出土の木器を考える』

植田文雄氏（能登川町教育委員会技師）

※ なお特別展準備と後始末のため10月17日（月）から22日（土）までと、11月7日（月）は臨時休館します。

